善光寺造営図　八幅

享禄四年四月

長野・善光寺大勧進

指定年月日　重要文化財（昭和六十三年六月六日、平成三年六月二十一日名称・員数変更）

修理年度　平成元・二年度

補助事業者　善光寺大勧進（長野県長野市）

修理施工者　光影堂

善光寺の再建に係る楼門その他付属建物六棟分の設計図八鋪（九図）である（寸法等左表のとおり）。各図ともに縮尺十分の一をもって描かれ、そのうち①鐘楼建地割図には「善□寺　大工」「享禄四年四月吉日」、⑥熊野三社側面図には「熊野三ちゃ屋しろのさしす」「如来之大工遠江守七十才之時之作、目かすみ候間□きわあしく候へともをゝかた仕候／後見之人ハ念佛一返御ゑかう所仰候」との墨書がある。その他、楼門を除いては寸法等の注記が付されている。

図の体裁及び注記の筆跡等からみていずれも享禄四年（一五三一）の作図になり、当時の付属建物再建に関する設計図と考えられる。遺例の少ない室町時代の建築設計図で、作図の年紀を明らかにするまとまった現存最古の造営図として中世建築史研究上に貴重である。

（寸法の単位はセンチメートル）

	名称	縦寸法	横寸法	紙数
①	楼門建地割図	一四四・四	一五六・五	一六
②	鐘楼建地割図	一〇二・六	一二六・七	八
③	回廊断面図	九〇・四	九九・二	六
④	回廊見上図	九一・二	一〇一・八	六
⑤	熊野三社正面図	八三・五	七六・五	五
⑥	熊野三社側面図	八四・〇	九〇・二	六
⑦	神明社側面図	八三・二	六七・五	五
⑧	四脚門側面図並正面図	六三・七	一一五・五	九

修理前の状況

本図は指定時には右の八鋪を一巻としていたが、縦一五三・五センチメートルに及ぶ大巻であり、取扱いが困難で、容易に公開できない状態であった。また、元折仕立装であったため、折損傷が甚だしく、本紙の欠損傷も大きかった。

修理の概要

今回の修理では、巻子装一巻を掛幅装八幅に改める現状変更を行うこととし、平成元年四月二十五日付けで文化庁長官の現状変更許可を受けた。以下に修理の概要を記す。なお修理に当たっては、濱島正士国立歴史民俗博物館教授（建築史）に専門的立場からのご教示を得た。

（1）解装して、各図の継目を除し、裏打紙及び旧補修紙を除去した。

（2）本紙を仮打ちし、欠損個所を補修紙にて補修し、美濃紙にて肌裏打、美栖紙にて増裏打を施し、折損個所及び脆弱個所に折伏せによる補強を施した。

（3）表装裂地（茶地小梅文綾裂）を新調し、美濃紙にて肌裏打を、

美栖紙にて増裏打を施した。

（4）本紙と裂地を一時仮張ののち、付廻しを行い、美栖紙にて一度（一部は二度）中裏打を施した上、宇陀紙にて総裏打を施して、仮張りを行った。

（5）軸首・軸木・紐を新調し、乾燥後仕上げを行った。

（6）保存箱として杢枯木桐材二段重被蓋箱を新調した。

修理に伴う知見

本図は紙背にも指図等が墨書されていることは以前から判明していたが、今回の修理で旧裏打紙を除去した際、これらを詳しく観察することが可能になった。内容に関しては次のような事実が判明した。

（1）②鐘楼建地割図の紙背下端ほぼ中央部に「三すん分なり」という注記が墨書されていること。

（2）③回廊断面図と④回廊見上図、⑤熊野三社正面図と⑥熊野三社側面図とは本来、それぞれ一鋪の図の表裏であり、過去に相剝ぎされたものであること。したがって、③④⑤⑥の紙背墨書はいずれも、相剝ぎの際、元の裏面の墨書が写り合ったものであること。

（3）⑧四脚門側面図並正面図の下段には、後筆（近代）の屋根伏図・扉図が貼りこまれていたが、この図は本紙紙背に描かれた屋根伏図・扉図を忠実に写したものであること。なお、この後筆の図は除去して、別に巻子装とし、保存箱に併せ収納した。

（文化庁文化財保護部美術工芸課　田良島哲）